

例 言

1 人口動態統計

戸籍法に基づく出生，死亡，婚姻，離婚及び死産届出規則に基づく死産の各届出書のうち，京都市内住所分を集計した。

2 医療統計

医療施設調査に基づき，病院，一般診療所及び歯科診療所（ただし，保健所を除く。）を対象に調査，集計した。

また，病院報告については，医療法施行規則に基づき，病院管理者から月々報告されたものを集計した。

3 各年の比率の算出基礎人口は，国勢調査年はそれに基づき，その他のものは総合企画局情報化推進室情報統計担当発表の10月1日現在の推計人口を用いた。

なお，昭和56年～59年，昭和61年～平成元年，平成3年～平成6年，平成8年～平成11年，平成13年～平成16年，平成18年～平成21年，平成23年～平成26年は，それぞれ昭和60年，平成2年，平成7年，平成12年，平成17年，平成22年，平成27年の国勢調査の結果に基づき遡及修正された数値を用いた。

4 総数に対する割合の合計が，四捨五入の関係で100.0%にならない場合がある。

5 各比率は，次の計算式に拠った。

(1) 出生率，死亡率，自然増加率，婚姻率，離婚率

$$\frac{1 \text{ 年間の事件数}}{10 \text{ 月 1 日現在人口}} \times 1,000$$

(2) 乳児死亡率，新生児死亡率，周産期死亡率

$$\frac{1 \text{ 年間の事件数}}{1 \text{ 年間の出生数}} \times 1,000$$

(3) 死産率

$$\frac{1 \text{ 年間の事件数}}{1 \text{ 年間の出産（出生+死産）数}} \times 1,000$$

(4) 月別出生率，死亡率，自然増加率，婚姻率，離婚率，り患率

$$\frac{X \text{ 月間の事件数} \times \frac{365 \text{（閏年366）}}{X \text{ 月の日数}}}{10 \text{ 月 1 日 現 在 人 口}} \times 1,000$$

（り患率のみ×100,000）

(5) 月別乳児死亡率

$$\frac{\text{X月間の事件数} \times \frac{\text{X月を含む過去1年間の日数}}{\text{X月の日数}}}{\text{X月を含む過去1年間の出生数}} \times 1,000$$

(6) 月別新生児死亡率

$$\frac{\text{月間新生児死亡数}}{\text{月間出生数}} \times 1,000$$

(7) 月別死産率

$$\frac{\text{月間死産数}}{\text{月間出産（出生＋死産）数}} \times 1,000$$

(8) り患率，死因別死亡率

$$\frac{\text{1年間の届出患者数，死因別死亡数}}{\text{10月1日現在人口}} \times 100,000$$

(9) 病床利用率

$$\frac{\text{ある期間内における平均在院患者数（1日当たり）}}{\text{その期間の中央における病床数}} \times 1,000$$

(10) 平均在院日数

$$\frac{\text{ある期間内の在院患者延数}}{1 \div 2 \times (\text{その期間内の新入院患者数} + \text{その期間内の退院患者数})}$$

(11) 指数

$$\frac{\text{比較する件数（又は比率）}}{\text{基準時の件数（又は比率）}} \times 100$$

— 表 章 記 号 の 規 約 —

計数のない場合	—
計数不明または計数を表章することが不適当な場合	…
統計項目のありえない場合	•
単位の2分の1未満の場合	0.0